

## 漁港・漁場・海岸の施設の設計にかかる相談事例

分類項目	外郭施設－環境への配慮
相談タイトル	生態系配慮型施設の検討
相談者	島根県
相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 和江漁港において計画している新沖防波堤については、採貝藻漁業の良好な漁場近隣に位置することから、施設設計にあたっては、増殖機能を付加した構造や自然石の使用等を検討し、自然環境との調和に配慮した漁港整備を行うこととしている。</li> <li>・ 事業計画策定段階において、地元漁業者から新沖防波堤計画位置が採貝藻漁業の良好な漁場であることから漂砂等の影響を懸念する声が出ていた。このため、設計にあたってはこの影響の有無を確認しつつ、生態系に配慮した内容とし、地元漁業者と合意形成を図ることが求められている。</li> <li>・ 藻場造成機能等付加形式の選定や漂砂影響の確認手法等について相談したい。</li> </ul>
相談会の結果 (H29. 7. 11)	<p>水工研より以下のアドバイスをを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漂砂については、過年度漂砂解析結果をベースに、調査内容や解析手法を照査しつつ検討を進めるべき。地形情報ではなく漂砂量（ベクトルを含めて）そのものを確認した方がよい。見かけ上、収支が0になる場合がある。また、浮遊砂について、短周期を想定して計算していると思われるが、長周期で押し込まれている可能性があり、再解析を勧める。</li> <li>・ 藻場機能付加については、現地生態系を把握の上模倣することが重要。また、例えばウニの隠れ場を作ることにならないようにするなど、食害が懸念されるウニが繁殖しないよう注意を払うべき。</li> </ul>
相談会後の検討状況	<p>相談会でのアドバイスを踏まえ、漂砂関係及び藻場機能付加関係の調査業務を進めることとした。</p> <p>漂砂関係については、H30年1月より波浪流況、浮遊砂及び底質の調査を実施し、波浪流況等の調査結果及び過年度成果の照査結果をもとに、H30年6月末頃までに新沖防波堤整備による漂砂影響確認手法案をとりまとめる予定。</p> <p>藻場機能付加関係については、対象地の藻場調査を、繁茂期（H30年4月末～6月）、衰退期（同年9月末～10月）に実施の上、H30年11月頃までに結果をとりまとめる予定。</p> <p>なお、漂砂影響確認手法案について、再度水工研に相談したい。</p>